

集団演技の創作過程 —ふくしま国体の場合—

鈴木 裕美子

1. 研究目的

平成7年に開催された第50回国民体育大会、すなわち、ふくしま国体の秋季大会（10月14日～19日）開会式の集団演技では、「友よ、ほんとうの空にとべ!」をスローガンに、12,000名が式典の前後に延べ100分間の演技を発表した。演技は、各小部会の委員が3年間かけて創作・指導した。

ふくしま国体・一般女性の部では、“福島のコ”をテーマに、6名の小部会の委員が作品の創作・指導を担当し、10月14日の総合開会式と、10月29日の第31回全国身体障害者スポーツ大会（10月28日～29日）の開会式において1000名の出演者が県営あづま陸上競技場で発表した。

本研究は、一般女性の集団演技を創作する課程を、群構成の課題として捉え、創作ダンス作品の創作法を追求することを目的とする。

2. 研究方法

ふくしま国体は、昭和60年に事務局、平成2年に式典専門委員会、平成3年に集団演技部会、平成4年に12の小部会が設立された。テーマに基づいて作品創作に取りかかった平成4年から、平成5年2月17日の第1回実証会（出演者は100名）、平成5年11月9日の第2回実証会（出演者は300名）を経て平成7年10月14日と29日の本番に至るまでの試案書・演技要項・写真集などの記録と、小部会の委員が提出した作品構成図や報告文、出演者の感想文および取材記録、演技が収録されたVTR等を分析した。

3. 作品の創作課程

“ふくしま”からブレインストーミング（表1）・机上創作・指導者への伝達・団体毎の練習・合同練習・修正と作品は練り上げられていった。

福島県のイメージと出演者である女性のイメージを掛け合わせて、“自然”と“愛”をテーマに、三部構成に仕上げた。豊かな自然と福島的女性をモチーフに、優しさ・厳しさ・躍動を集団の美で表現しようとした。隊形は、直線（斜め→横）→円→ブロック（→渦→）扇と5分26秒の間に4変化した。手具を持って着物にぞうりの出で立ちで、400mトラックの芝のフィールドを全力疾走するのは容易なことではなかった。

動きは、優しい愛、試行錯誤、厳しい愛、叱咤激励、松、渦、扇など、場面毎にネーミングし共通理解を求めた。第1回目の実証会では全体の流れを、第2回目の実証会では隊形の変化と密度を検討した。創作にあたって、集合・分散で集団を生かす、隊形変化は直線と曲線を明確にする、扇

隊形の場面ではウェーブでうねる・2分割・4分割するなど色彩の変化を強調することを意識した。

音楽は第1回目の実証会では小部会で編集した曲を、第2回目の実証会では音楽担当者がシンセサイザーで編集した曲を、本番ではオリジナルの曲を使用した。出演者からは、拍が明確である・きっかけがとらえやすい・なじみやすい音楽がよいとの希望があった。

衣装は、前面が紫色、後面が銀色の着物で、襟に赤い布をつけ、銀色の帯を巻き、頭には赤い布を被った。手具は手作りの紙製の扇で、着物と同様、紫色と銀色に着色した。手具を持ち変えての色の変化の表現に苦勞した。

表1. “ふくしま”からブレインストーミング

豊かな自然、本当の空、海、紅葉、雪、夏の暑さと冬の寒さ、果物、温泉、スキー場、磐梯山、阿武隈川、猪苗代湖、尾瀬、安達ヶ原、厚い人情、芭蕉、野口英世、智恵子、白鳥、キビタキ、ネモトシャクナゲ、ケヤキなど
--

4. 練習形態と出演者

各グループの指導者に動きを伝達し、グループ毎の練習、地区練習、合同練習を行った。また、競技場での練習は、事前にポイント研修を行い、位置を確認した。

出演者は、子育ての落ち着いた50代を中心に、20～70代の女性1000名で、内訳はスポーツクラブ関係300名、女性団体関係700名であった。

運動習慣のある人となない人とのギャップは大きく、また、演技としての運動の修得は、正確さ・美しさ・仲間との調和を求められ、出演者にとって初期の段階は心身ともに厳しい試練であった。机上創作と実際は、動きの修得度、マスとしての見栄えの観点から修正が必要で、練習の過程では混乱が伴った。また、意欲はあるが練習の厳しさに不満が高まり、県庁や指導者宛の電話や手紙で訴える人もいた。しかし、次第に動きを修得し、賞賛され、衣装が配布されると、指導の厳しさを求めるようになった。

当日は、衣装・手具・被り布・フィナーレの人文字の布などの点検の後、ゲートへ。晴天のもと、観客に見守られて入場。位置・動き・動線・手具の色に注意して演技発表が行われた。

5. まとめ

ふくしま国体の集団演技・一般女性の部の創作過程を分析して、以下の結論が得られた。群構成は、規模が大きくなると、群の移動時間やマスとしての伝達、出演者の意識や体力への配慮に綿密な検討が必要となる。グループ単位の動線は単純にする、集団の美・隊形変化の美・衣装や手具などの色彩の美を重視し、群の表現を大切にすることが重要であることが明らかになった。